

## 王道を歩みながら進化し続ける

### ● 県立浦高・杉山剛士校長先生の講話から！

先日、「春日部地区浦高会会報」を関係者の方々にお送りしたところ、浦和高校の杉山剛士校長先生からメールを頂戴いたしました。ご紹介しますと…

「先日は春日部浦高会総会が盛会だったようでありがとうございました。あいにく出席できずに申し訳ありませんでした。鯨井事務局長さんからはお話を伺ったところです。また、いつものとおり早速のまとめ、興味深く拝見させていただいています。日本の少子高齢化、超高齢社会の課題をどのようにプラスに転じさせていくか。この始業式の校長講話でもお話ししましたが、浦高生の柔軟な発想に期待しています。<http://www.urawa-h.spec.ed.jp/> 今後ともどうぞよろしくお願いいたします。」



とありました。最近、興味をもっているグローバル化のお話でしたので、ここに綴りますが、その前に終業式のお話から…

\*

### ◆ 1学期終業式校長あいさつ

私は、この4月に浦和高校の校長に初めて着任しました。4月の始業式でお話したように、以前から「浦高は凄い学校だな」と思っていました。特に私にとっては浦高の先輩である二三年生そして先生方・事務や業務の職員の皆さんの振るまいを観察して、その「凄さ」の秘密がどこにあるのか、探ってきました。

まだまだ後半戦には、文化祭、古河マラソンを始めもっと凄いシーンを見ることができないかと思いますが、1学期終わったところで、私が感じた浦高の凄さをまとめておきたいと思います。

浦高の凄さは一言で言うと、「**教育の王道を歩みながら、かつ進化し続けている**」ところにあると思います。教育の王道は何かというと、それは**全人教育**というか「**知徳体**」の**バランスのとれた教育**です。でもこの王道を歩むのがなかなか難しい。特に最近のように「**大学受験**」「**大学受験**」という声が一歩歩くと、例えば特進クラスを作って部活はやめさせようなど、様々な動きが出てきます。そうした状況の中で、「**知・徳・体**」バランスのとれた教育を行うということは大変なことです。浦高は教育の王道を歩んでいます。一方、**時代の変化に対応して、進化しています。それが示されている一つとして、「守・破・離」という言葉に代表される指導体制。**これなんかは昔は「**離・離・離**」とある意味では生徒の自主性に任せつつ放りっぱなしだったと思いますが、今は型をしっかり叩き込みつつ、最終的にはその型をも破らせる。凄いですね。この「**守破離**」

の考え方。あるいは先ほどの壮行会にもあったケンブリッジやロンドンインペリアル進学までも視野に入れたミシガンセミナーやウィットギフトとの交流などグローバル教育、これも凄い。

特に私が素晴らしいと思うのは、**近年の浦高が「集団」のもつ教育力、「仲間の持つ力」を重視している**ことです。先生方の間では、「**自走する生徒集団づくり**」という言葉を使っているのですが、「**自走力**」といってもよいかもしれませんが、これは全国いや世界でも見られないものだと思います。朝早く、そして部活動のあとに学校を回ると、多くの諸君が黙々と勉強しています。この雰囲気は凄い。

ある先生がこう言っていました。「浦高生を見ているとテレビの龍馬伝に出ていた勝海舟の海軍伝習所の様子を思い出す」と。

時代が尊王攘夷から開国倒幕へと移る中で、全国の若い志士が勝海舟のもとに集まり、日本の近代化を目指し、互いに励ましあい教えあいながら欧米の先進技術を貪る様に目を輝かせて学びました。そうした光景は、今の社会では確かに失われつつあります。それが浦高にはある。

もし今もそうした光景が残っているとしたら、それはアジアの国々、中国、韓国、シンガポールの高校生たちです。彼らの学習意欲と向上心、とにかく



【尚文昌武】の旗】

「**学びたい**」という純粋な渴望感にびっくりしたこと、敬服したことが何度もあります。【写真は校長室にある

\*

皆さんのライバルは、身内や県内にあるのではなく、全国の高校生諸君、そして世界の高校生諸君です。視点を高く。視線を遠くに。世界のトップにという気概を持つ。広き宇内に雄飛せん。先ほどお話をした今の風潮、つまり行事や部活も中途半端な中で、また目先の大学受験だけのために勉強させる進学校が増えている中で、「**教育の王道**」を歩みながらしかも結果を出していくためには、「**がりがり**」君というアイスがあるけれど、龍馬伝の海軍伝習所のように、私はこの、朝から夜まで、みんなで切磋琢磨し、励ましあいながら「**がりがり勉**」をすることが唯一無比の手段だと思います。仲間同士で成績がよいの悪い、100番だ200番だ300番だなんてことはどうでもない。視点を高くしもっと遠くを見据えて、みんなで高め合っていく。

以上まとめると、私の感じた浦高の凄さは、簡単にいえば「王道を歩みながら進化している」こと。そして特に「集団力」「自走力」の凄さという話をしました。

\*

しかし、何事にも光があれば影がある。調子に乗っていると陥りやすい落とし穴がある。あるいはもっともって凄くなるために考えなければならない点がある。後半にその話をします。大きく二点。

まず大きく一点目は、「守破離」のそれぞれに関連して気をつける点があるということ。

最初は「守破離」の「守」。これは少なくとも三兎を追う中で、どれだけ1、2年生で学習時間を確保できるか。これが生命線。タイムマネジメントの能力、そして集中力が必要だと思います。昔経団連の会長をやった土光敏夫という人がこんなことを言っています。「この地上に同じ人間は一人もいないが、ただ一つだけ同じ条件の中で人は生きている。それは一日24時間を平等に与えられているということ。それをどう活かすかがその人の人生であり、責任である。」まさにタイムマネジメントです。そして、忙しい中で時間を作り出すだけでなく、日々の学習や課題も「やらされている」という意識ではなく「やっている」という意識をいかに持てるか。これがポイントだと思います。

次に「守破離」の「破」。これは挑戦ですね。浦高では多くの学習機会が提供されます。君たちは若いうちに、どんどん外への刺激に触れた方がいい。武者修行っていったけれど、これは自分の道場にとどまっていなくて、ある程度型ができれば、どんどん外に出かけて行って、同じ世代のライバルと勝負をしたり、師匠と呼べる人を探すということだと思います。若いうちに「本物」の人にどれだけ出会うかで人生はぐっと変わります。本物に出会って、ショックを受けたりびしびしけなされたりすることが大事。そして本物と出会って感動することが大事。そのためには、例えば今回もありましたが、東大ボーイングのプログラム、数学や理科のオリンピック、あるいは海外との交流プログラムなどたくさん機会があるけれど、一日でも三日でも一週間でもいいから、どんどん武者修行に行き本物からこっぴどくぎゃんと言われることが大事だと思います。このへんの「破」は、浦高生を見ていると、もっともって世界に飛び出して、チャレンジしていてもよいのではないかと私は思っています。

そして「守破離」の「離」。これは特に三年生。三年生に私は期待しています。今年度の後半戦、「浦高マジック」という言葉があると聞いたけれど、ぜひ見せてください。これから受験までの間を逆算して、じっくり戦略・作戦を立てる。何をどのようにすべ

きか。それが決まったら、あとは死にものぐるいで取り組む。うまく行かなければまた修正していけばよい。三年生のあるクラスの後ろの黒板に「行動改革」という言葉が赤字で書いてあるクラスがありますが、私はいつも、この言葉は誰がどんな気持ちで書いたのかと想像しています。いい言葉ですね。

「受験は団体戦」という言葉があって、最近多くの学校で使われていますが、「勉強だけの団体戦」というイメージが強い。でも浦高は違う。部活も行事も、みんなでやって完全燃焼したからこそ、勉強も完全燃焼できる。浦高では本当の意味での「団体戦」ができるのだと思います。一年の頃から「少なくとも三兎を追え」と言われ「浦高魂」で育ってきた三年生の皆さんは、ますますそれができるといけないと思います。浦高マジックどころか「浦高ウルトラスーパーマジック」を見せてほしいと思っています。本気の本気で取り組めば、必ずや結果は出てくるものです。

\*

そして光と影の「影」の大きく二点目。それは「公共心」です。

ゴミ箱からゴミがあふれているときにどうするか。あるとき、ある生徒があふれているゴミやカンを取り出して、新しい袋をセットして、そのゴミを捨てに行こうとしてました。「偉いね」っていったら、にこっと笑って静かに去って行きました。見事な立ち振る舞いです。

1学期の始業式にケネディ大統領の就任演説の話をしました。「国家が何をしてくれるかではなく、国家のために何ができるかを聞いてほしい」

全くそのとおりです。求めるのではなく、「与えることができる」人間になれということでもあります。「公共」とは「みんなの幸せ」を指します。ぜひ、自分自身のエゴのためということではなく、みんなの幸せのために何ができるかという視点をいつも持ってほしい。「みんなの幸せ」のために何ができるのか。そして、自分はどうか立ち振る舞えばよいか。ぜひ考えて行動に移してみてください。

長く話をしましたが、話は戻りますが、浦高の校長となって改めて浦高の凄さについて感心しています。ただいつまでも感心してばかりでは、校長としても恥ずかしいので、次回2学期からは、浦高がもっともって凄くなるよう、今、時代が求めているリーダーとはどんな人なのかということについて、何回かに分けて、お話をしていきたいと思っています。

それでは、夏休み、事故のないよう注意して、また2学期の始業式に元気な顔を見せてください。

【平成25年7月19日、1学期終業式（校長あいさつ）。浦和高校公式ホームページより】

こうした伏線があって2学期のごあいさつが…。